

画親の不仲、虐待の経験から親になることに戸惑う夫婦。出産予定日に我が子を失った夫婦。子どもを望んだもの授けられない人生を受け入れた夫婦。完治しない障害を持つ子を育てる夫婦。全てが「うまれる」ストーリーです。

千宮出身のすべての人たちへ贈る感動のドキュメント



この映画は、たんなるなる出産ドキュメンタリーなどではなく、出産を切り口にした『親子の物語』なのだと思ふ。

親に、深く、深く、感謝した。

乙武洋匡 (作家)

映画を見終わり、隣にいた娘たちを抱きしめた。

素敵な映画が生まれてくれて、ありがとう。

久保純子 (フリーアナウンサー)

自分を支えてくれる全ての人々(いのち)と出会えた奇跡。大切なみんなに、「ありがとう」を伝えたくなった。

別所哲也 (俳優)

新しく生まれる命を通して描かれた、リアルなドキュメント。きれいごとだけじゃない、弱さや、葛藤、無慈悲とも思える現実に向き合いながらそれでも、なお輝く人々の物語。

この映画で彼らに出逢えて良かった!

政井マヤ (フリーアナウンサー)

“僕はただ、両親と仲直りがしたくて、この映画を作ったのかもしれない”

自分は愛されているんだろうか… 自分は本当にこの両親の子どもなんだろうか… 物心ついた時から、僕はそう思っていました。

4歳年下の弟が右目が半分開かない状態で産まれてきたことから、両親は弟の事で精一杯。僕は「親の愛情」というものを、知らず知らず育った気がしていました。

自分はなぜうまれてきたのか、何のために生きているのか… 自分存在価値がよくわからなくなり、結婚や子どもを持つことに、全く夢を描けませんでした。

そんなある日。講演会で「赤ちゃんは雲の上で親を選んで生まれてくる」という胎内記憶の話が聞きました。

自分は好きでうまれてきたんじゃないし、子どもは親を選べないと思っと思っていて僕は、非科学的でファンタジーな話とは思いつつ、心から感動したのです。

自分が選んだのかも、と考えると、いまの親子関係は自分にも責任があるのでは、自分も本当は愛されていたのでは… 長らく抱いていた否定的な感情が少しずつ消えていくのを感じました。

「うまれる」ことを映画にしたい! 命の原点に向き合うことで、僕自身、両親との関係を築き直せるかもしれない……。

それから3年あまり。何十組ものご家族、ご夫婦を取材・撮影させていただいたりしてきましたが、「うまれる」ことを知れば知るほど、その奥深さと神秘に僕は圧倒されました。

産まれてくる命の尊さ、感じる機会ってどのくらいあるのでしょうか? 全身の細胞全部で、映画のメッセージを受け止めていただけたらうれしいです。

企画・監督・撮影 豪田トモ

あなたの町で映画『うまれる』を上映しませんか?

自主上映会サービスの詳細 & お申込は公式HPより



ナレーション: つるの剛士 企画・監督・撮影: 豪田トモ
制作: インテグロ・フィルムズ / 配給・宣伝: マジックアワー
©2010 「うまれる」パートナーズLLP
2010/日本 / カラー / HD-30mm/104分 / ビスタサイズ / DTS STEREO
www.umareru.jp



命のドラマが書籍になりました。

「うまれる かけがえのない、あなたへ」

豪田トモ著 PHP 研究所 1,470円 (税込)

うまれる

10月は里親月間 11月は虐待防止月間、乳幼児突然死症候群 (SIDS) 対策強化月間

↑啓発活動もしています。

*主催*親子育てサロンお結び *協力*天使のはね新潟

赤い羽根共同募金から助成して頂いています。

